

建設リサイクルの現状 (建設リサイクル推進計画2014の概要)

「建設リサイクル推進計画2014」の概要①

計画のポイント

- ・建設副産物の物流状況を毎年モニタリングし、現場分別・再資源化・再生資材利用が不十分な者に対して、その促進を要請。
- ・建設発生土の官民一体となったマッチングを強化し、その有効利用を促進。
- ・建設副産物の再資源化率等に関する平成30年度目標値を設定し、建設リサイクルを一層推進。

計画の位置づけ

国および地方公共団体のみならず、民間事業者を含めた建設リサイクルの関係者が今後中期的に建設副産物のリサイクルや適正処理等を推進することを目的として、国土交通省における建設リサイクルの推進に向けた基本的考え方、目標、具体的施策をとりまとめた計画

計画の対象

国土交通省が自ら実施する施策と併せて、地方公共団体、民間事業者等が実施する施策についても本計画の反映を要請

計画期間・目標設定

平成26年度～30年度の5ヵ年とし、平成30年度目標値を設定(詳細は概要②)

主要課題とその対応

- ①将来的な建設副産物の発生量の増加への対応
- ②地域ごとに異なる建設リサイクルに係る課題
- ③循環型社会の形成に向けた建設リサイクル分野としての貢献
→各課題への対応として、新たに取り組むべき重点施策(7項目16施策)を設定(詳細は概要③)

フォローアップ

- ・目標の達成状況及び取組み・施策の実施状況は、毎年建設副産物物流のモニタリング調査や、従来からの建設副産物実態調査等により把握・評価
- ・フォローアップや取組み、施策の具体化にあたっては、適宜「建設リサイクル推進施策検討小委員会」からご助言等を頂き、効果的な施策の実施を図る。

「建設リサイクル推進計画2014」の概要②

「建設リサイクル推進計画2014」の目標値

対象品目		平成24年度 目標	平成24年度 実績	平成30年度 目標	
アスファルト・コンクリート塊	再資源化率	98%以上	99.5%	99%以上	再資源化率が低下しない よう維持
コンクリート塊	再資源化率	98%以上	99.3%	99%以上	
建設発生木材	再資源化・縮減率	95%以上	94.4%	95%以上	引き続き目標達成を目指す
建設汚泥	再資源化・縮減率	82%以上	85.0%	90%以上	より高い数値目標を設定
建設混合廃棄物	排出率※1	—	3.9%	3.5%以下	指標を排出量から建設混 合廃棄物排出率※1と再資 源化・縮減率に変更
	再資源化・縮減率	—	58.2%	60%以上	
建設廃棄物全体	再資源化・縮減率	94%以上	96.0%	96%以上	より高い数値目標を設定
建設発生土	建設発生土 有効利用率※3	—	—	80%以上	指標を利用土砂の建設発 生土利用率※2から建設発 生土有効利用率※3に変更

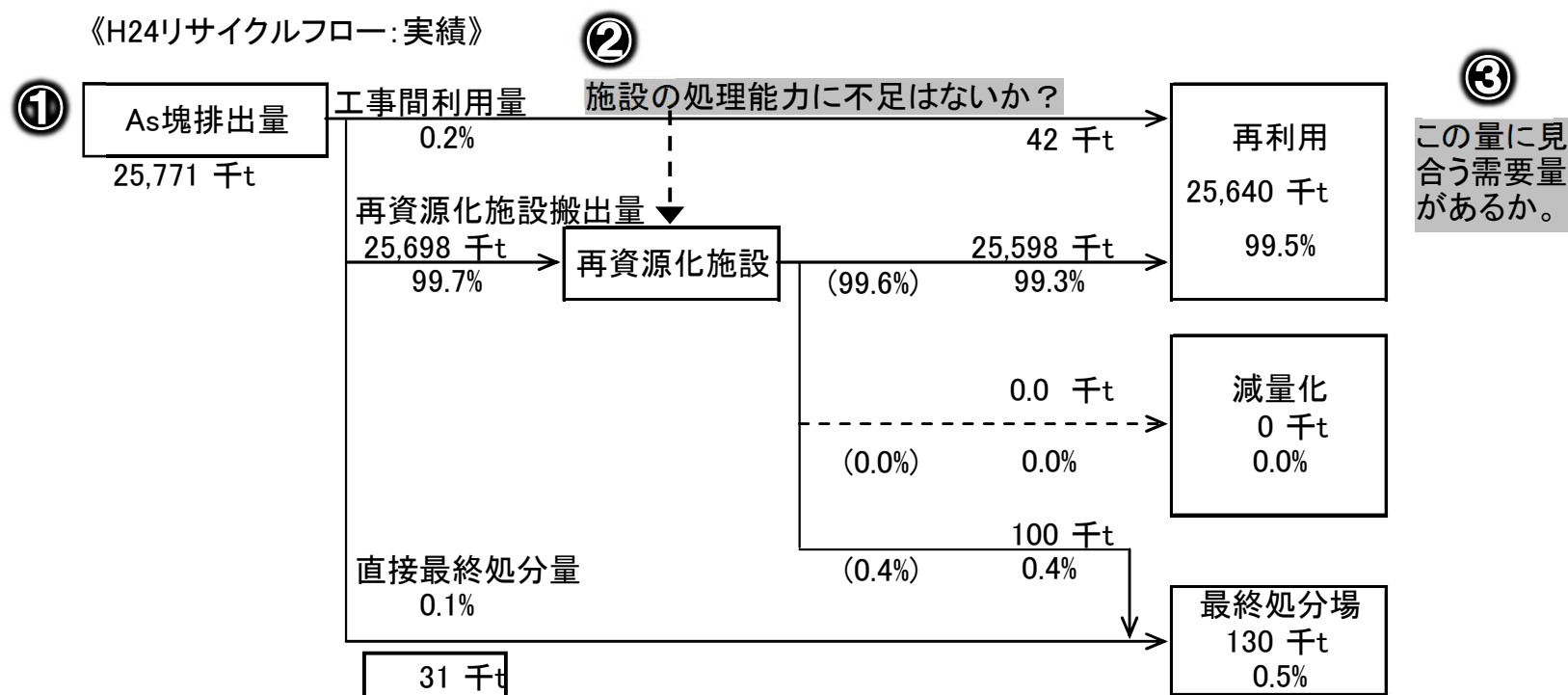
※1: 全建設廃棄物排出量に対する建設混合廃棄物排出量の割合

※2: 土砂利用量に対する現場内利用および工事間利用等による建設工事での有効利用量の割合

※3: 建設発生土発生量に対する現場内利用およびこれまでの工事間利用等に適正に盛土された採石場跡地復旧や農地受入等を加えた有効利用量の割合

H30目標値の設定方法について

- 「建設リサイクル推進計画」で定める目標値は、目標年度の姿を見据えながら実現可能な数値を設定する必要がある。
- 「建設リサイクル推進計画2014」における平成30年度目標値の設定に関しては、次の点を考慮して設定した。
 - ①将来の発生量がどうなるか。
 - ②将来の発生量に応じた処理能力が不足していないか。
 - ③再利用先の需要があるか。



アスファルト・コンクリート塊 (H24現状フロー)

H30目標値の設定方法について

①将来の発生量予測式は、次のとおり。工事区分、品目別を実施（15年間程度）

$$(\text{将来搬出量}) = (\text{最新H24搬出原単位}) \times (\text{将来工事量})$$

$$(\text{将来利用量}) = (\text{最新H24利用原単位}) \times (\text{将来工事量})$$

工事区分		将来原単位	将来工事量
公共 土木工事		単位工事額当たり搬出量・利用量 (最新H24原単位を使用)	$\frac{\text{将来工事額 (億円)}}{(\text{H24工事額}) \times (\text{公的固定資本形成額のトレンドによる伸び率}^*)}$ ※高位：+1%、中位：±0%、低位：-1%
民間 土木工事		単位工事額当たり搬出量・利用量 (最新H24原単位を使用)	$\frac{\text{将来工事額 (億円)}}{(\text{H24工事額}) \times (\text{民間土木工事額のトレンドによる伸び率}^*)}$ ※0.5%
建築 工事	新築	単着工床面積当たり搬出量・利用量 (最新H24原単位を使用)	$\frac{\text{将来着工延床面積 (m}^2\text{)}}{\text{過去の実績延床面積データより、重回帰式で推計 H24: } a_1 \times (\text{将来人口増加率}^{\ast 1}) + a_2 \times (\text{将来経済成長率}^{\ast 2}) + b}$ ※1：国立社会保障・人口問題研究所が行っている推計値で高位、中位、低位を設定 ※2：高位+2%、中位+1.5%、低位：+1.0%
	解体	単位除却床面積当たり搬出量・利用量 (最新H24原単位を使用)	$\frac{\text{将来除却床面積 (m}^2\text{)}}{\text{過去の実績除却面積データより、重回帰式で推計 H24: } a_1 \times (\text{床面積ストック}) + a_2 \times (\text{将来着工床面積}) + b}$

H30目標値の設定方法について

②施設の処理能力については、最新H24実態調査で把握した「施設処理能力」で評価

(将来の発生量) < (最新H24施設処理能力)

- ・実態調査では、各処理施設の「処理能力(トン/日)」「年間稼働日数」を把握している。
- ・各処理施設の「年間処理可能数量」=「処理能力(トン/日)」×「年間稼働日数」
- ・各処理施設の「年間処理可能数量」を積み上げて、各品目の「年間処理可能数量」を推計し、前述①で推計した将来発生量と、各品目の「年間処理可能数量」を比較

③再利用先の需要は、建設資材等の利用量で評価

<コンクリート塊の場合>

- ・コンクリート塊の多くは、再生路盤材として再生利用
- ・コンクリート塊の将来発生量(前述①で予測)と、碎石の将来利用量(前述①で予測)を比較

品目	再利用先
コンクリート塊	再生路盤材 (前述の将来利用量と比較)
アスファルト・コンクリート塊	再生アスファルト合材、再生路盤材 (前述の将来利用量と比較)
建設発生木材	木材チップ需要量(現状)
建設汚泥	建設発生土 (前述の将来利用量と比較)
建設混合廃棄物	なし

「建設リサイクル推進計画2014」の概要③

3 新たに取り組むべき重点施策(16施策)

(1) 建設副産物物流のモニタリング強化

- ① 混廃・木材・汚泥の直接最終処分要因等のモニタリング実施
- ② 建設副産物物流モニタリング毎年実施
- ③ 再生クラッシュランのストック状況等把握

(2) 地域固有の課題解決の促進

- ① 建設副産物対策地方連絡協議会を中心とした地域固有の課題抽出・解決

(3) 他の環境政策との統合的展開への理解促進

- ① 木材焼却時の熱エネルギー回収の導入事例・効果の周知

(4) 工事前段階における発生抑制の検討促進

- ① 事業の計画・設計段階における発生抑制対策の検討促進

(5) 現場分別・施設搬出の徹底による再資源化・縮減の促進

- ① 混廃中の現場分別可能な混入物の分別搬出徹底の要請
- ② 混廃・木材・汚泥の再資源化施設への搬出徹底の要請
- ③ 再資源化・縮減率の高い優良な施設の把握・搬出推進

(6) 建設工事における再生資材の利用促進

- ① 再生資材利用状況に関する指標導入・モニタリング結果に基づく利用徹底の要請
- ② 建設汚泥の先進的な利用事例(自ら利用、個別指定制度の活用、汚泥処理土利用など)の周知
- ③ 再生資材の品質基準や保証方法の確立

(7) 建設発生土の有効利用・適正処理の促進強化

- ① 建設発生土の官民一体的なマッチング強化
- ② 内陸受入地での取扱い等情報を把握するシステムの構築
- ③ 内陸受入地での不適切な取扱いによる土砂崩落等の公衆災害抑制促進
- ④ 自然由来の重金属等を含む土砂等を適正に評価した場合の安全性の一般市民への理解促進

4 建設リサイクル推進にあたり引き続き取り組むべき施策(37施策)

- | | | |
|---------------------|------------------|---------------------|
| (1)情報管理と物流管理(2施策) | (2)関係者の連携強化(3施策) | (3)理解と参画の推進(4施策) |
| (4)建設リサイクル市場育成(3施策) | (5)技術開発等の推進(5施策) | (6)発生抑制(3施策) |
| (8)再資源化・縮減(2施策) | (9)適正処理(4施策) | (7)現場分別(4施策) |
| | | (10)再使用・再生資材利用(7施策) |

上記53施策を着実に実行し、建設副産物の発生抑制・再資源化・再生利用・適正処理等の一層の推進を図る